
十日町市教育委員会 **文 化 財 課 年 報 3**

平成10年度（1998.4～1999.3）

十日町市教育委員会 文化財課

例 言

1. 本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成10年度を中心とした活動記録である。
2. 本書の構成は文化財課の業務を大まかにⅠ．運営、Ⅱ．指定文化財、Ⅲ．埋蔵文化財の3つに分類し、本来はⅣ．調査・研究に入るべき資料紹介はⅢ．に含めた。また、関連するデータについては適宜振り分けた。
3. 本書の原稿は、文化財課職員がそれぞれ担当を決めて執筆し、末尾に担当者名を記した。資料紹介については、紀要的内容に鑑みて記名原稿とした。
4. 提出された原稿は、できるかぎり原文を尊重した。ただし、用字・用語、内容、表記など執筆者の了解をえて編集者が修正した箇所がある。
5. 本書の編集は石原正敏が担当し、菅沼亘、太田喜重、山田敏枝、上野洋子の協力を得た。
6. 文化財の保護・調査活動から本書作成までに、教育委員、文化財保護審議会委員、指定文化財の所有者・管理者の各位をはじめ下記の個人、団体、機関などからご支援・ご協力をいただいた。記して御礼申し上げる次第である。

(50音順、敬称略)

阿部 昭典 井口熊治郎 池田 亨 岩田 忠員 梅川 勝史 大谷 幸子 春日 真実
河崎 政治 吉楽 勝弥 梶沢美千代 桑原 健二 佐藤 雅一 関口 良吉 関谷袈裟松
高野 カツ 高橋 勝 高橋 昭治 田川 欣五 田辺昭一郎 仲 和子 中村 由克
庭野とも子 庭野 良平 根津 恵 馬場 一枝 馬場奈穂子 樋口 美保 福原 健一
藤原 敏秀 真霜 金吉 水落 武治 宮内 信雄 宮田 千里 山内 景行 山崎 国政
山田 郁子 山本 克 和田 アサ 和田 安治 (株)当間高原リゾート 越後アンギン伝承
会 (株)こうそく (株)第一印刷所 (株)滝沢印刷所 十日町市企画人事課・区画整理課・総務課・農
林課 十日町市博物館友の会 (株)十日町測量 十日町農地事務所 特別養護老人ホーム三好園
新潟県教育庁文化行政課 文化庁 水沢地区公民館 (有)みらい印刷

目 次

Ⅰ．運 営

1. 文化財保護活動この1年 1
2. 予算と決算 3
3. 組織および職員体制 2
4. 文化財保護審議会の経過 2

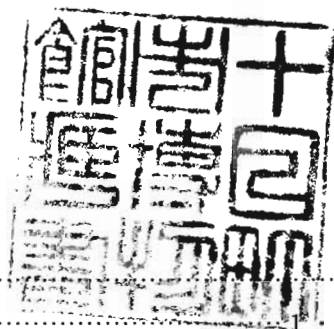
Ⅱ．指定文化財

1. 新指定文化財—平成10年度の状況 4～5
2. 指定文化財の保存・管理 6～7
3. 指定文化財の活用 7～9

Ⅲ．埋蔵文化財

1. 発掘調査概要および1次整理事業 10～11
2. 馬場上遺跡等遺物整理事業 12
3. 『笹山遺跡発掘調査報告書』刊行事業 12
4. 普及事業の概要 13
5. 資料紹介 大井久保遺跡出土の粘土塊 菅沼 亘 14～15

- 資料 指定文化財一覧 16



I. 運 営

1. 文化財保護活動この1年

平成10年度の文化財保護活動を概観する。

文化財保護審議会

文化財保護審議会第13期委員は平成10年6月11日をもって任期を終えたが、7人全員を再委嘱し会長に竹内道雄氏、会長職務代理に樋熊清治氏を選出した。任期は平成12年6月11日までの2年間である。

文化財指定

教育委員会は、平成11年2月25日に伊達八幡館跡出土品(一括)、越後アンギン及び関係資料(一括)、越後アンギン製作技術の3件を市指定文化財にすることを文化財保護審議会に諮問した。

文化財保護審議会は3月11日に審議会を開き、市指定文化財とすることが妥当である旨の答申した。これを受けて、3月16日の教育委員会で文化財として指定することを決定した。

越後アンギンの製作は、永らく途絶えていたものであるが、「越後アンギン伝承会」を組織して製作技術を復元・習得し、後継者の育成を図ってきたものである。今回の指定は、今後の文化財保護活動の一つの方向を示すものとして評価できよう。

指定文化財の管理等

9月22日の台風7号・10月17日の台風17号によって高麗神社社叢・神宮寺境内林山に倒木が生じた。また、東枯木又龍王社のカスミザクラに枯れ枝が多発した。これらはいずれも伐採・除去処理した。文化財に指定した樹木・樹林は高樹齢のものが多く、今後も樹勢の衰えなど同様な問題が生ずるものと考えられ、管理上の課題となろう。

赤倉神楽保存会では、県費補助を受けて「後継者育成事業」につとめてきたが、9月27日に群馬県前橋市で行われた「第40回関東ブロック民俗芸能大会」に出演し、事業の成果を発表した。

県指定文化財「神宮寺観音堂」は、平成8年度から県費補助を受けて屋根の葺替えを行ってきたが、今年度も事業費300万円で事業を実施した。

この二つの事業は、平成11年度も継続される予定である。

発掘・試掘調査

平成10年度は、下条地区の谷地A遺跡ほか2箇所1,670㎡の発掘調査と10件の試掘調査を行った。

その概要は、以下に掲げるもののほか、別に刊行した『平成10年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』によらるたい。

出土遺物の整理

平成10年度は馬場上遺跡ほかの出土遺物整理をすすめてきた。その進捗状況は以下に報告するが、早急な進行が求められている。

『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行

笹山遺跡は、昭和55年の第1次の発掘調査から60年まで7回にわたって発掘調査が行われた。火焰型土器をはじめとする出土遺物の一部は重要文化財に指定されており、報告書の刊行が求められていた。今回の刊行は、こうした要望に応えたものである。A4判・412ページ。報告書は十日町市博物館友の会で3,500円で頒布している。

近年の文化財保護活動は、各種の開発事業にともなった発掘調査を中心に展開されてきた。今年度の『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行は、活動の中心を前進させたものであり、今後も継続・発展させることが求められている。

1年間各種事業を実施するにあたり、ご指導・ご協力をたまわった関係各位に心から感謝申し上げる次第である。
(丸山克巳)

2. 予算と決算

平成10年度予算は、当初23,004千円であったが6月、8月、9月、12月、3月の補正を経て、決算は30,448千円となる見込みである。大別すると(1)一般経費、(2)文化財保護調査費、(3)埋蔵文化財関係経費からなる。(2)では、例年同様に神宮寺観音堂・山門の茅屋根修理や赤倉神楽の後継者育成事業ほかに補助を行っている。

(3)では、10年度から遺跡の試掘・確認調査事業に国庫および県費の補助を受けている。また、継続事業の『笹山遺跡発掘調査報告書』が秋に予定通り刊行され、引続き馬場上遺跡ほか古代遺跡の発掘調査報告書作成作業を行う一方で、下条地区の県営ほ場整備に伴う遺跡の発掘調査事業が8月補正で追加され、発掘調査が秋に集中した点などが本年度の特徴である。
(村山恵美子・高橋トシ子)

3. 組織および職員体制

文化財課は、笹山遺跡発掘調査報告書の刊行にむけた専従体制をとるため平成9年度は2係制をとったが、10年秋に刊行できる見込みとなったため1係制に戻した。10年度の組織および職員体制は以下の通りである（博物館職員を一部含む）。文化財課が本務で、博物館を兼務する職員と博物館が本務で、文化財課を兼務する職員が半々となっている。

文化財課長	風間栄光（兼務）
課長補佐	丸山克巳（ 〃 、10年4月～）
副参事・文化財係長(文化財主事)	阿部恭平
主査	高橋トシ子（兼務、10年4月～）
〃	高橋アキ（兼務）
主任	角山誠一
〃 (文化財主事)	石原正敏
主事	太田喜重
〃 (文化財主事)	菅沼亘
〃	村山恵美子（兼務、10年4月～）
調査研究員	中澤幸男（嘱託、博）
臨時職員	山田敏枝
〃	上野洋子
〃	山口真佐子（博）
※転出	竹内俊道（教委 庶務管理課へ）
〃	庭山敏子（農業委員会事務局へ）
〃	佐野芳隆（商工観光課へ、博）

（博）は博物館職員

4. 文化財保護審議会の経過

平成10年度は、6月11日を以て第13期の委員任期が満了し、12日付で第14期委員7名が前期に引き続き委嘱された。

第1回 平成10年6月30日(火) 15時～17時

《出席者》竹内道雄、樋熊清治、佐野良吉、大島伊一、上村政基、田村喜一の各委員および生越教育長、風間、丸山、阿部、高橋（ト）、角山、石原丸山補佐の進行で竹内会長および樋熊職務代理を選任。文化財課の係制を1係制に戻したことをはじめ、平成10年度の予算と事業の進捗状況、笹山遺跡出土品のパリ「縄文展」への出陳、レプリカ制作、智泉寺山門屋根修理工事の完了、東枯木又カスミザクラの枯れ枝除去などについて報告。

今年度の市指定文化財候補物件については①伊達八幡館跡出土品、②越後アンギン製作技術、③越後アンギン及び関係資料に絞って調査を進めることを

協議し、合わせて「笹山遺跡出土品」など指定文化財の今後の活用と普及啓発活動についても意見交換が行われた。

第2回 10月23日(金) 13時30分～16時

《出席者》竹内会長、樋熊職務代理、佐野、大島、上村、田村の各委員および生越教育長、風間、丸山、阿部、高橋（ア）、角山

笹山遺跡発掘調査報告書の刊行、文化庁による重文笹山遺跡出土品の調査、文化財標柱および説明板の設置、東枯木又カスミザクラ枯れ枝除去完了、指定文化財の台風被害状況、開発に伴う遺跡発掘調査状況、市の長期発展計画などについて報告。

市指定文化財候補物件の①伊達八幡館跡出土品、②越後アンギン製作技術、③越後アンギン及び関係資料などについて実見および調査を行い、今年度指定の方向で検討していくことが協議された。

文化財保護研修会 11月16日(月) 13時～17時30分
(郡市社会教育振興会主催：当番 津南町)

研修参加者は30名で、当市からは委員6名、事務局4名が参加した。

第3回 12月25日(金) 15時～17時

《出席者》竹内会長、樋熊職務代理、佐野、大島、上村、田村、須藤の各委員および生越教育長、風間、丸山、阿部、高橋（ア）

平成11年度事業の方針と重点、長期発展計画ローリング結果、パリ「縄文展」出陳土器の返却、レプリカ贈呈へのシラク大統領の礼状、遺跡の発掘調査状況、高麗神社社叢の杉の伐採などについて報告。

市指定文化財候補物件の①伊達八幡館跡出土品、②越後アンギン製作技術、③越後アンギン及び関係資料などについて2回目の実見および調査。合わせて「笹山遺跡出土品」の活用や展示公開についての意見交換が行われた。

第4回 平成11年3月11日(木) 13時30分～15時30分

《出席者》竹内会長、樋熊職務代理、佐野、大島、上村、田村、須藤の各委員および生越教育長、風間、丸山、阿部、高橋（ア）、石原

有形文化財・伊達八幡館跡出土品(一括)、無形文化財工芸技術・越後アンギン製作技術、有形民俗文化財・越後アンギン及び関係資料(一括)の3件の指定について審議。全員一致で指定に賛同。答申書を教育委員会(教育長)に提出。平成11年度の事業および予算、観泉院山門の門扉等の修理はかについて協議。
(高橋アキ)

○歳入予算（決算見込）

(単位：千円) ※ 3月19日現在

12款 国庫支出金 2項 国庫補助金 5目 教育費国庫補助金			
節	説 明	予算額	決算見込額
4. 社会教育費補助金	遺跡調査遺物整理補助金	1,000	1,000
13款 県支出金 2項 県補助金 7目 教育費県補助金			
4. 社会教育費県補助金	遺跡調査遺物整理補助金	500	500
	伝統民俗芸能等後継者育成補助金	500	500
18款 諸収入 4項 受託事業収入 3目 教育事業受託収入			
1. 遺跡調査業務受託収入	1. 遺跡調査業務受託収入	8,075	8,075
5項 雑入 3目 雑入			
7. 教育雑入	発掘調査派遣職員人件費ほか	1,640	1,640

○歳出予算（決算見込）

(単位：千円、千円未満切り上げ) ※ 3月19日現在

節	説 明	予算額	決算見込額
1. 報 酬	文化財保護審議会委員（7人）	154	154
7. 賃 金	臨時職員賃金3,933・発掘調査人夫賃金4,320 遺物整理人夫賃金5,928・文化財保護人夫賃金ほか155	14,336	14,336
8. 報 償 費	報告書作成協力者謝礼ほか	495	421
9. 旅 費	費用弁償47・普通旅費109	156	138
11. 需 要 費	消耗品費855・燃料費40・食糧費9・印刷製本費7,875・修繕料297	9,076	8,974
12. 役 務 費	手数料21・保険料32・通信運搬費30	83	49
13. 委 託 料	遺跡地形測量委託料2,350・指定文化財管理委託料ほか602	2,952	2,923
14. 使用料ほか	コピー使用料310・発掘用重機借上料ほか590	900	819
15. 工事請負費	指定文化財説明板設置工事	368	368
16. 原 材 料 費	遺構保存用原材料ほか	70	66
18. 備品購入費	文化財資料166・平型図面庫150	316	316
19. 負担金ほか	指定文化財管理補助金、同保存修理事業補助金ほか	1,870	1,870
27. 公 課 費	自動車重量税	14	14
合 計		30,790	30,448

(作表：村山恵美子)

Ⅱ．指定文化財

1. 新指定文化財—平成10年度の状況

平成10年度の指定文化財候補物件は、前年度からの懸案であった笹山遺跡（史跡の追加分）、越後アンギン製作技術、越後アンギン及び関係資料に、幅上遺跡出土品、伊達八幡館跡出土品を加えた5件であった。このうち、笹山遺跡は地権者交渉を慎重にすべしとの進言から次年度以降に先送りし、また幅上遺跡出土品は実見調査等が未了となったため、審議には至らなかった。結局、これらを除く3件が指定を受けた。次に新指定文化財の概要を紹介する。

伊達八幡館跡出土品（有形文化財 考古資料）

伊達八幡館跡は、十日町市大字伊達字八幡に所在する。昭和62年、県営は場整備事業に伴う発掘調査によって、主郭と副郭のほか、これらを取巻く外郭的な遺構からなる大規模な居館跡が発見された。

主郭は低い崖となる東側を除いて、長さ約60m、上幅約6m、深さ約1mの空堀に取囲まれている。主郭への出入口は、南側空堀の土橋のほか、西側と北側空堀に木橋の遺構が認められる。内部からは、大小の堀立柱建物跡が15棟検出されている。重複するものが多く、最大の建物は、約155㎡（約47坪）である。井戸跡は2基検出され石組みが施されている。この他、枡形的な防衛施設とみられる小空堀が1か所検出されている。副郭は、主郭の西側に隣接し北側へ張出している。東西側が約44m、南北側が約40mで、上幅約1.5m、深さ約1mの空堀に取囲まれている。内部からは、重複する大小の堀立柱建物跡が11棟検出され、また、外郭的な区域からも、大小23棟の堀立柱建物跡が発見されている。

出土遺物には、さまざまな素材を用いた各種のものが出土している。最も多いのは陶磁器類であるが石製品、木製品、金属製品なども見られる。

陶磁器類には、中国産の白磁、青磁、染付、天目茶碗があり、国内産では、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、越前焼、土師質土器、瓦質土器などがある。その中心を占めるのは、15世紀前半と、15世紀後半から16世紀前半のものである。石製品には、粉挽き臼・茶磨（茶臼）・石鉢・砥石・硯などがある。木製品には、下駄・曲物・漆塗り椀・板などがみられる。金属製品には、鉄製の雁股鎌・刀子・釘などのほかに中国銭貨や、特殊な遺物として、銅製の仏具が出土

している。これには、錫杖の頭・花瓶・燭台・皿などがあり、優品も多く注目される。

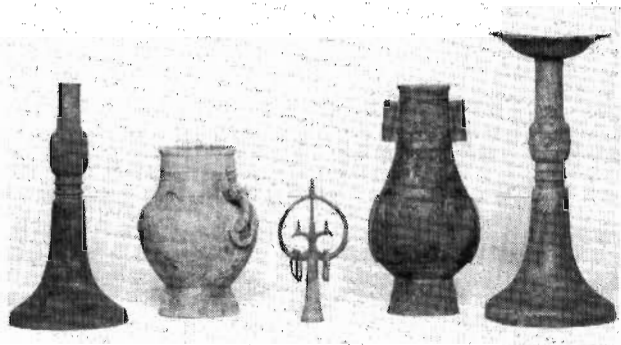


写真1 伊達八幡館跡出土品（仏具 錫杖の頭・花瓶・燭台）

本館跡はこの地域を支配していた豪族の日常生活の場所であり、南東約700mの高位段丘の突端部に所在する伊達城跡（山城）とセットをなして機能していたことは明らかである。本館跡の創築年代や存続期間は、室町時代の前期から戦国時代までおよそ100年から150年あまりと推定されるが、なお詳細な検討を要する。館主（城主）についても越後新田氏一族の鳥山氏の可能性もあるが、直接的な史料や古記録はなく今のところ不明といわざるをえない。本館跡の規模や構造からすると、相当勢力をもったかなり身分や地位の高い人物の居住も考えられる。

本館跡出土品は、これらの問題を考究する上で極めて重要であり、また、乏しい中世史料を補填し、当地方の歴史を解明する上でも掛け替えのない資料である。ちなみに、中世城館の発生時の形態や単郭から複郭への進展の時期などに関しても、本資料は学界に寄与するところが大きいと思われる。

越後アンギン及び関係資料（民俗文化財 有形民俗文化財）

越後アンギンというのは、カラムシ・アカソ・イラクサなどの植物繊維を素材に編んで作られた布である。かつては、「アンギン」といえば、袖なし型の着衣を指し、これにはアンギン帯が付属していたとみられる。アンギンは、この他、前当て・前掛け袋など様々な用途に使われたようである。アンギンの語源は、編衣（あみぎぬ）あるいは網衣である。

近年の、考古学の発展と調査の増大とによって、編んで作られた布が、縄文時代人の衣料の主流であったことが明らかになってきている。しかし、この編布も、織物という進化技術が普及すると急速に衰退の一途をたどり、丈夫さや厚さなどの特性を活か

した用途に限られて、その技術が伝承されたと推測される。その一例として有名なのが、時宗の僧侶が身にまとった編布の法衣（阿弥衣）である。

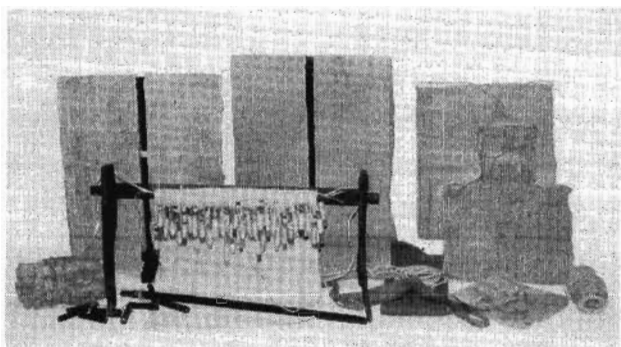


写真2 越後アンギン及び関係資料（袖なし・前当て・編み工具など）

この編布の古い技法を現代に伝えるアンギン製品や製作工具、製作技術が保存伝承されているのは全国的に見ても新潟県内だけなので「越後アンギン」と呼ばれている。越後アンギンといっても、これが遺存しているのは県内一円ではなく、南越後の十日町市・川西町・中里村・津南町・松代町・松之山町を中心とする魚沼地方と東頸城郡にはほぼ限定され、学術的にも極めて貴重なものであるといえる。

名称も、地域によって異なり、十日町市の平地部と川西町・中里村・津南町ではアンギン、十日町市の山間地はマギン（マンガイン・マンガ）、松代町・松之山町の東頸城郡はバト（バトウ）、小千谷市・信州秋山郷（長野県栄村）はバタと呼んでいる。

越後アンギンの製作工具は単純で、俵編み機のようなケタとアミアシを組合せた用具と、経（タテ）糸を巻き付けてケタに吊し、緯（ヨコ）糸を編んでいく用具としてのコモツチの2つだけである。またアンギン帯の製作工具も簡単で、織機のアソビ（綜統）とヒ（杼）に類するものだけである。

以上、越後アンギンは、遙か遠い昔に創始された編布の末裔であり、縄文時代前期、あるいはそれ以前の技法を今に伝えるものである。しかも、全国的にみても、当市域及び周辺の一部にのみ遺存するという、その希少性も極めて重要で、アンギンの存在意義や資料的価値は計り知れないものがある。また編物から織物への進化や発展に、アンギン編み技術が深い関わりを持っていた可能性がある。特に、アンギン帯は織物であり、工具もハタ（織機）の祖形かも知れず、極めて示唆的である。

越後アンギン製作技術（無形文化財 工芸技術）

越後アンギン及びその製作技術は、十日町市をはじめ周辺地域においても、明治時代の中ほどないし

末頃までにはほとんど途絶えていたとみられるが、これを再び世に出したのが県民俗学会の創始者、小林存氏である。昭和28年、小林氏によってアンギンの小袋が秋山郷の結束で発見されると、これを契機にアンギン探索が本格的に開始された。

その後、昭和35年、本山幸一氏は津南町樽田で、製作工具及び若年での製作経験者（松沢傳二郎氏）を発見し、津南町教育委員会の滝沢秀一氏と協力して、アンギンの製作技術をついに復元し「幻の布」アンギンを現代に蘇らせた。この製作技術は、滝沢秀一氏に受け継がれて伝承、普及されることとなり、同氏の情熱もあって、津南町では有志の方々や越後秋山郷の女性たちも技術の習得に努めた。また関心が高まり小学校の授業にも取り上げられた。

当市ではしばらく後の、平成5年12月、「縄文芸術の郷を創る会」が、この越後アンギンの製作技術を習得し後世に伝えようと、アンギン学習会を開催し伝承活動をスタートさせた。まもなく「アンギン同好会」の誕生をみ、本格的な伝承活動に入った。技術指導には、アンギン研究の第一人者である滝沢秀一氏を中心に、その門下の者が当たった。その後、平成7年7月、この同好会を母体として「越後アンギン伝承会」が発足し、現在に至っている。



写真3 越後アンギン製作技術の研鑽に励む伝承会員

この伝承会の活動は、例会を毎週金曜日の午後から催し、滝沢氏などの技術指導のもと、越後アンギンの伝統的な技術の習得とその向上に努めている。製作技術の基本は、アンギン編み工具を使い、米俵を編むように経糸で緯糸を絡めて編むが、必ず1目ずつ飛ばして、経糸1本おきに編んでいく。以下、技術の詳細は、滝沢氏の研究があるので割愛する。

伝承会では、技術習得のため、原料のカラムシの繊維を綿って経糸を作り、江戸時代からの伝世品を参考にアンギン袖なしや帯を製作している。一方、現代における活用を図るため、花瓶敷などの製作と応用技術にも挑戦している。（阿部恭平）

2. 指定文化財の保存・管理

指定文化財標柱設置事業

文化財に指定された物件について、その存在を明確にし、広くその存在を知らせる意味で、文化財標柱を設置している。対象は屋外の指定物件で、建造物、史跡、名勝、天然記念物などである。標柱は木製角材のため、数年ほどで腐朽してしまい、随時立替える必要がある。今年度は、次にあげる3件の史跡、天然記念物について新設、立替えを実施した。

新設 史跡 羽川（秋葉山）城跡
立替え 天然記念物 姿箭放神社の大ケヤキ
〃 史跡 鉢の石仏

指定文化財説明板設置事業

標柱と同様に、屋外の指定物件について順次設置している。指定文化財の近くに設置し、その文化財の概要などを記して見学者の便をはかるとともに、保護意識を育むことを目的としている。今年度は建造物の智泉寺山門に設置した。なお、初めての試みとして英文を併記した。

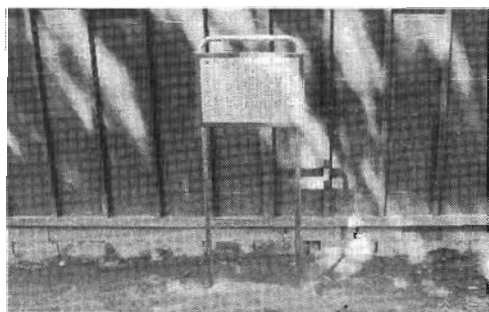


写真4 設置した説明板（全景）



写真5 説明板（近景）

指定文化財保存管理委託事業

市教育委員会では、指定した文化財の保存・管理のため、所有者・管理者に対し定額の補助を行なっている。補助の対象となる文化財は清掃、雪囲い、除雪などが必要な屋外の物件および無形民俗文化財のうち伝承にかかる内容のみである。平成10年度からは委託料と補助金に二分されることとなった。

(1)指定文化財管理委託料

＜県指定文化財＞		(単位：円)
史跡	大井田城跡	61,200
天然記念物	小貫諏訪社の大スギ	18,000
＜市指定文化財＞		
建造物	智泉寺山門	18,000
建造物	観泉院山門	18,000
史跡	四日町神宮寺境内地及び山林	61,200
史跡	大黒沢正平在銘梵字碑	18,000
史跡	鉢の石仏	61,200
史跡	羽川（秋葉山）城跡	61,200
名勝	積翠荘	36,000
天然記念物	姿箭放神社大ケヤキ	18,000
天然記念物	高霞神社社叢	61,200
天然記念物	安養寺松尾神社の大スギ	18,000
天然記念物	安養寺門通庵の三本スギ	18,000
天然記念物	枯木又龍王池とカスミザクラ及び三本スギ	36,000
天然記念物	入山のカスミザクラ	18,000
(合 計)		522,000

(2)指定文化財管理補助金

＜市指定文化財＞		
無形民俗	赤倉神楽	30,000
無形民俗	大の坂	30,000
無形民俗	新保広大寺節	30,000
無形民俗	新水のドウラクジン(道楽神)とハネツケエーシ(羽根返し)	30,000
(合 計)		120,000

台風7号・10号の被害状況について

9月22日の夜、県内を吹き荒れた台風7号により市指定史跡の四日町神宮寺境内地及び山林に大きな被害が出た。境内地内の杉6本が根こそぎ倒され、



写真6
高霞神社社叢の倒木

そのうちの1本が神宮寺住職宅を直撃した。杉は樹齢二百数十年と推定され、高さ約30m、幹回り 1.5 ～ 2.5mであった。このほか、今後倒れる危険性のある3本も合わせて伐採除去された。

10月17日の夜に襲来した台風10号では市指定天然記念物の高龕神社社叢に被害が出た。高さ約20m、幹回り 2.2mの杉1本が根こそぎ倒され、同様に今後倒れる危険性のある4本も合わせて伐採除去された。

文化財保存修理事業

県指定文化財の建造物「神宮寺観音堂・山門」茅屋根葺替工事は6年計画で平成8年度に着手した。第3年次にあたる10年度の事業概要は、以下の通りである。

工事名	神宮寺観音堂茅屋根東側葺替工事
事業主体	神宮寺
請負者	大津秀夫ほか茅屋根職人
工事期間	平成10年8月18日～9月25日
工事費	総額 3,003,172円
	(内訳) 新潟県 1,500,000円 (1/2)
	十日町市 750,000円 (1/4)
	神宮寺 753,172円 (1/4)



写真7 葺替工事中の観音堂

伝統民俗芸能等後継者育成事業

市指定の無形民俗文化財「赤倉神楽」の活動支援と後継者育成を目的として県と市が500,000円ずつ計1,000,000円を同保存会に補助した。本事業は3ヶ年継続事業で、平成10年度は第2年次にあたる。補助金は伝承教室・発表会の開催、衣裳の購入、記録ビデオ・磁気録音テープの作成などに費された。

第40回関東ブロック民俗芸能大会参加事業

日時：平成10年9月27日(日)12時～16時

会場：群馬県民会館小ホール

主催：群馬県教育委員会・第40回関東ブロック
民俗芸能大会実行委員会

後援：文化庁・前橋市教育委員会

関東ブロック民俗芸能大会は、昭和34年に東京都で第1回大会が開催されて以来、1都10県でもちまわり開催され今回で第40回を迎えた。この大会は、各県に伝承されている民俗芸能のうち価値の高いものを一堂に集めて公開するものである。民俗芸能について一般の理解と関心を高めるとともに、各地における保存・伝承活動の活性化に寄与することを目的としている。大会には開催県の群馬をはじめ、山梨、静岡、栃木、茨城、新潟の6県から7団体が参加、新潟からは十日町市の赤倉神楽保存会が選ばれた。当日は、同保存会と赤倉小学校児童の総勢18名が出演し、「廣大寺」「伊勢音頭」「剣の舞」「花笠踊り」の4演目を約20分にわたり演じた。なお、本事業は県より300,000円の補助を受けて実施した。

(角山誠一)



写真8 赤倉神楽保存会出演風景

3. 指定文化財の活用

文化財資料の貸出し状況について

平成8年度については『文化財課年報』1をご参照いただきたい。9年度、10年度のレプリカを含む実物資料貸出し状況は表2～3のとおりである。なお、笹山遺跡出土品は発掘調査報告書作成に伴い、9年度は貸出しを行っていない。(石原正敏)

パリ「縄文展」で“縄文大使”を担った火焰型土器

平成10年9月28日から11月28日まで2ヶ月間、フランス・パリの日本文化会館で「縄文展」が開催された。この「縄文展」は、3年前にフランスのシラク大統領が来日した際に当時の橋本総理との首脳会談で日仏国宝級の美術品の交換展示が約束されたことによる。平成9年は「フランスにおける日本年」というテーマで奈良・法隆寺の国宝「百済観音展」がルーブル美術館で開催された。今回はその第2弾である。出品点数は45件、計111点である。縄文土器をはじめ、土偶・土面・耳飾りなど全国からよりすぐられた逸品ばかりであり、国宝・重要文化財が

大半を占めている。この中には十日町市笹山遺跡出土の火焰型土器2点と王冠型土器1点の計3点が含まれている。2ヶ月間の見学者が3万人を超えたと聞いており、関心の高さを伺い知ることができる。市文化協会連合会及び博物館友の会では「縄文展ツアー」を組み、笹山遺跡の「縄文の華」が会場中央に飾られ、一行は深い感動を覚えて帰った。十日町市では、縄文土器に造詣の深いシラク大統領に火焰型土器のレプリカを贈呈した。大統領からは、本田市市長あてに自筆入りの礼状が届いている。この火焰型土器が、日本とヨーロッパとの文化交流の架橋になるよう願っている。その後、ある人が火焰型土器に「縄文大使」という新しい愛称をつけた。

フランスの文化人類学者レヴィ＝ストロース（90才）は「私の知っている日本文化はもっと地味で簡素だと認識していた。縄文文化を見ると装飾的であ

ふれんばかりの旺盛な感情が見て取れる。縄文の精神（エスプリ）に日本の美学がかくされているのかもしれない」とコメントしている。

今回の「縄文展」が契機となり、縄文芸術および文化についての関心がヨーロッパにおいて一層高まるとともに、日仏間の人・物の交流が盛んになるよう期待したい。

（風間栄光）

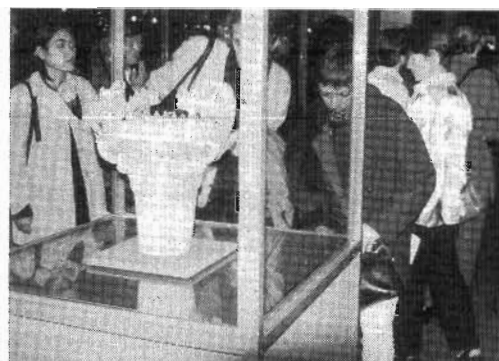


写真9 縄文展会場風景

表2 文化財資料の貸出し状況一覧（1997.4～1998.3） ※市内貸出しを除く。実物（レプリカ含む）のみ。

貸出施設名	特 別 展 示	貸 出 資 料 名	貸 出 期 間	観 覧 料	備考
秋田県秋田市 秋田県立博物館（県立）	よみがえる縄文ファッション ー衣服・髪形 装身具ー	越後アンギン袖なし 1点、 アンギン編み工具一式	貸出 4/18～7/14 会期 4/26～6/29	一般 310円 （団割 240円）	図録 1
新潟県柏崎市 柏崎市立博物館（市立）	越佐の鍬	平鍬、風呂鍬、三本鍬 計11点	貸出 9/25～12/15 会期 10/25～11/24	一般 200円 小・中学生 100円 （団体は2割引）	
新潟県塩沢町 鈴木牧之記念館（財団）	雪文化三館提携5 周年記念共同企画 展	スケット、タヅナ、タコ 計4点	貸出 11/25～12/9 会期 11/26～12/8	一般 500円 （団割 400円）	
大阪府和泉市 大阪府立弥生 文化博物館（府立）	第6回写真コンテ スト ファインダ ーからのぞいた弥 生文化	越後アンギン袖なし（帯付） 1点	貸出 1/26～3/5 会期 2/28～3/1	一般 400円 （団割 320円）	
鹿児島県鹿児島市 鹿児島歴史資料セン ター黎明館（県立）	海上の道 ー鹿児島島の文化の 源流をさぐるー	カタビラ 3点、奉納幡 1 点	貸出 1/27～3/16 会期 2/6～3/8	一般 310円 大・高校生 200円 小・中学生 100円 （団体は 各50円割引）	図録 2

※資料掲載図録

1. 秋田県立博物館『よみがえる縄文ファッションー衣服・髪形・装身具ー』
2. 鹿児島県歴史資料センター黎明館『海上の道ー鹿児島島の文化の源流をさぐるー』

表3 文化財資料の貸出し状況一覧（1998.4～1999.3） ※市内貸出しを除く。実物（レプリカ含む）のみ。

貸出施設名	特 別 展 示	貸 出 資 料 名	貸 出 期 間	観 覧 料	備考
新潟県十日町市 柏田屋株式会社(民間)	十日町と草木染友禅（札幌市ガーデンパレス内）	カンジキ、スゲボウシなど民具 計23点	貸出 4/6～4/21 会期 4/14～4/16	一般 0円	
群馬県高崎市 群馬県立歴史博物館（県立）	縄文文化の 十字路・群馬 －土器文様の 交流－	市指定文化財・笹山遺跡出土品のうち土器 2点、赤羽根遺跡土器 2点、幅上遺跡土器 1点	貸出 7/1～9/11 会期 7/15～8/30	一般 400円 （団割 320円）	図録 1
パリ・日本文化会館 （文化庁）	縄文展	国重要文化財・笹山遺跡出土品のうち火焰型土器 2点、王冠型土器 1点	貸出 8/26～12/15 会期 9/28～11/28		図録 2
群馬県北橋村 北橋村歴史民俗資料館 （村立）	縄文 いのりとうたげ	市指定文化財・笹山遺跡出土品のうち土器 1点、南雲遺跡土器 1点、横割遺跡土器 2点、幅上遺跡土器 1点、大井久保遺跡土器 1点、笹山遺跡土器レプリカ 3点	貸出 10/12～12/11 会期 10/18～12/6	一般 210円 （団割 160円）	図録 3
東京都東村山市 (株)森田環境企画 （民間）	新潟県立歴史民俗文化館（仮称）に展示するレプリカ製作の見本として	笹山遺跡土器レプリカ 2点	貸出 8/8～8/20		
東京都渋谷区 NHK放送技術局 （民間）	NHKハイビジョン放送 週間ハイビジョンニュースに使用するため	越後アンギン袖なし（帯付） 4点	貸出 9/7～9/11		
福島県船引町 縄文の里 （民間）	縄文モーマーフエスタ'98 －縄文人からの贈り物－ に使用するため	越後アンギン袖なし（帯付） 4点	貸出 10/3～10/4		
宮城県一迫町 一迫町埋蔵文化財センター （町立）	レプリカ製作のため	幅上遺跡圧痕土器 1点、栗ノ木田遺跡圧痕土器 2点	貸出 10/28～11/9		

※資料掲載図録

1. 群馬県立歴史博物館『縄文文化の十字路・群馬－土器文様の交流－』
2. 『J ŌMON l'art du Japon des origines』
3. 北橋村教育委員会・北橋村歴史民俗資料館『縄文 いのりとうたげ』

Ⅲ．埋蔵文化財

1．発掘調査概要および1次整理事業

十日町市における平成10年度の遺跡調査件数は13件であった。内訳は、確認・本調査3件、試掘調査10件である。それらは、福祉施設建設、県営ほ場整備、区画整理、駐車場造成、棚田地域等緊急保全対策事業などの開発行為に伴う事前調査として実施された。『文化財課年報』1の28頁に示した発掘調査の歩みは表4のように追加され、地区別の調査状況をまとめると表5のようになる。水沢地区が群を抜いて多いことはいうまでもないが、ほ場整備事業、鉄塔建設工事、リゾートなど大規模開発の進展が大きく影響している。

今年度の特徴としては、関係機関等との協議により、調査が9月下旬～12月上旬という秋の時期に集中した点である。不順な天候の中、多くの作業員、補助員、地元関係者の方々のご協力により調査業務が無事終了できたことは、大きな喜びであった。関係各位に深甚なる謝意を表したい。約3ヶ月間の調査において、貴重な遺物や遺構が発見されている。市報とおかまち平成11年1月10日号に小特集を組んだので、ここでは概要を述べるにとどめる。具体的なデータ等については、『平成10年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』（十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集）をご参照いただきたい。

谷地A遺跡（下条3丁目）

特別養護老人ホーム三好園の南側に位置する。三好園の増築に伴って、10月中旬～11月上旬の間に約300㎡の範囲を調査し、古代の集落跡を確認した。出土遺物は、平安時代の土師器・須恵器、中世の陶磁器類などである。陶磁器類には国内産の珠洲焼・越前焼のほか、中国産の青磁・白磁などがある。検出遺構には掘立柱建物跡3棟などがあり、建物の長軸は東西方向を向いている。なお、三好園の西側に広がる畑部分は、県営ほ場整備事業上組工区の施工に伴い、11年度に発掘調査を行う予定である。

廿日城東遺跡（下条2丁目）

（株）オゴセスクリーンの西側に位置する。県営ほ場整備事業上組工区の施工に伴い、11月上旬～12月上旬の間に約720㎡の範囲を調査し、縄文時代の遺物包蔵地であることを確認した。調査途中であり、石組炉などの遺構はまだ見つからないが、縄文

中期の土器や打製石斧などの遺物が出土している。発掘調査は11年度も継続して行う予定であり、竪穴住居跡などの発見が期待される。

中新田B遺跡（下条2丁目）

廿日城集会所の北方約100m、信濃川に面した場所に位置する。県営ほ場整備事業上組工区の施工に伴い、10月中旬～12月中旬の間に約650㎡の範囲を調査し、縄文時代の遺物包蔵地であることを確認した。調査途中であり、風倒木痕以外には遺構はまだ見つからないが、縄文中期の土器や石器などの遺物が出土している。発掘調査は11年度初めにも継続して行う予定である。

試掘調査

試掘調査は、遺跡の有無やその範囲、保存状態などを調べるために行うものである。下条地区では、県営ほ場整備事業予定地の全域について人力による調査を行い、縄文時代から中・近世にいたる計5つの遺跡が埋没していることを確認した。また、厚生連中条病院の駐車場造成に伴う北原西遺跡の調査や東枯木又地区の棚田地域等緊急保全対策事業に伴う泥木遺跡の調査、駅西地区の区画整理事業に伴う下梨子遺跡の調査においても、縄文土器や石器などが採集されている。各種開発に伴う試掘調査は今後ますます増えることが予想される。

1次整理事業

上記のように、試掘・確認・本調査で出土した遺物を水洗・乾燥→注記→分類・整理→接合・復元などの工程で整理する作業を、便宜的に1次整理事業と呼び、次項に示すような2次整理事業（実測、拓本、製図、写真撮影など）と区別している。

今年度の場合、1次整理事業は国・県の補助を受けて事業を進めている『市内遺跡試掘・確認調査報告書』の刊行にむけた基礎作業が最優先であり、並行して県営ほ場整備事業上組工区の『発掘調査概要報告書』（11年度末刊行予定）をはじめ『野首遺跡発掘調査報告書』、『寿久保遺跡発掘調査報告書』（いずれも刊行の時期は未定）などの作業も行っている。平成7年度末までに出土した遺物は既に1次整理事業が終了しており、8年度～9年度の遺物が一部を除いてほとんど未整理の状態にある。早急に対応策を検討しなければならない。（石原正敏）

表4 十日町市の発掘調査の歩み2

(平成11年3月末現在)

年 度	発掘	試掘	発 掘 調 査 さ れ た 遺 跡
9 年	10	2	やせ舟遺跡（第3次）、春山遺跡、寿久遺跡、十二沖A遺跡、十二沖B遺跡、中曽根A遺跡、原田A遺跡、原田B遺跡、つつじ原C遺跡、なんぜん萱場遺跡（第2次）
10年	3	10	谷地A遺跡（第1次）、中新田B遺跡（第1次）、廿日城東遺跡（第1次）
小 計	119	162	※試掘は確認調査を一部含む
平成11年 （予定）	11	2	中新田B遺跡（第2次）、廿日城東遺跡（第2次）、谷地A遺跡（第2次）、中新田A遺跡、野田遺跡、泥木遺跡、下梨子遺跡、古寺沢A遺跡、中山A遺跡、中山B遺跡、琵琶懸城跡

表5 地区別の発掘調査状況

(平成11年3月末現在)

地 区	総数	発掘	試掘	発 掘 調 査 さ れ た 遺 跡
下 条	26	17	19	池ノ端遺跡、中段遺跡、野首遺跡(3)、戸屋遺跡(2)、上組A遺跡、上組B遺跡、寿久保遺跡、春山遺跡、十二沖A遺跡、十二沖B遺跡、中曽根A遺跡、谷地A遺跡、中新田B遺跡、廿日城東遺跡
中 条	47	21	25	北原八幡遺跡、坪野館跡、笹山遺跡(7)、笹山塚群、社畑遺跡、道下遺跡、岡山遺跡、アミダ屋敷A遺跡、谷内田遺跡、島A遺跡、島B遺跡、白井田A遺跡、白井田B遺跡、原田A遺跡、原田B遺跡
十日町	11	11	12	馬場上遺跡(6)、上梨子A遺跡、上梨子B遺跡、やせ舟遺跡(3)
川治・ 六箇	56	10	24	城之古遺跡(3)、川治百塚6号塚、川治上原A遺跡、川治上原B遺跡、栗ノ木田遺跡、狐塚遺跡、大沢遺跡、上塚原B遺跡
水 沢	65	44	65	牛ヶ首遺跡、つつじ原B遺跡(2)、カタガリ遺跡、カタガリ城跡、赤羽根遺跡(3)、馬場館跡(2)、馬場神社遺跡、江崎遺跡、柳木田遺跡(2)、水穴遺跡(2)、南谷内館跡(2)、伊達八幡館跡、寺大門北遺跡、寺大門南遺跡、河原田遺跡、貉原遺跡、朴ノ木清水B遺跡、朴ノ木清水A遺跡、つつじ原A遺跡、大清水遺跡、天池A遺跡、天池B遺跡、水沢館跡、横割遺跡、椿池遺跡、牧脇遺跡、大井久保遺跡、ほんのう遺跡(2)、珠川A遺跡(2)、珠川B遺跡、ほんのう南遺跡、なんぜん萱場遺跡(2)、つつじ原C遺跡
吉 田	34	16	17	小坂遺跡(3)、鎧坂二ツ塚、幅上遺跡、大新田遺跡、牛塚遺跡、宮ノ上A遺跡、宮ノ上B遺跡、延命寺遺跡、高島南原A遺跡、高島南原B遺跡、カウカ平A遺跡、カウカ平B遺跡、中道遺跡、思川遺跡
小 計	239	119	162	※試掘は確認調査を一部含む。()内の数字は調査の回数を表す。

2. 馬場上遺跡等遺物整理事業

当市における発掘・試掘調査は、表6のとおり昭和50年代後半から、公共事業に伴い件数が急激に増加した。主な調査原因は、体育（運動）施設、道路新設および改良、鉄塔建設、県営ほ場整備事業などであり、調査面積も著しく拡大した。

これらの大規模調査に伴い大量の遺物が出土したが、次々に発生する発掘調査に追われ、これらの整理作業が先送りにされていった。その結果、現在までに概要報告書を含め発掘調査報告書が刊行されているのは、わずか11遺跡である。

文化財課では、平成9年度より開始した笹山遺跡発掘調査報告書刊行事業を契機に、今後継続的に報告書を刊行することになった。それに伴い平成11年度からは、市の新長期発展計画に継続事業として埋蔵文化財発掘調査報告書刊行事業が組み込まれることが決まった。

次に報告書を刊行すべき遺跡として、調査年次の古さ、遺跡の重要性などから、縄文時代では赤羽根遺跡（前期）、幅上遺跡（中期）、古墳時代・古代では馬場上遺跡（古墳～平安）、中世では伊達八幡

年度	本調査	試掘	調査された主な遺跡
昭和34	1		小坂遺跡（第1次）
35	1		小坂遺跡（第2次）
45	1		牛ヶ首遺跡
48	2		城之古遺跡（第1次・県教委）
49	2	9	馬場上遺跡（第1・2次）
50	3	20	馬場上遺跡（第3・4次）
51	1		つつじ原B遺跡（第1次）
55	3		坪野館跡、笹山遺跡（第1次）
56	2		笹山遺跡（第2次）
57	7		笹山遺跡（第3～5次）
58	4	2	赤羽根遺跡（第1・2次）
59	6	4	柳木田遺跡（第1次）
60	6	3	南谷内館跡（第1次）
61	2	2	栗ノ木田遺跡
62	3	5	伊達八幡館跡
63	4	10	河原田遺跡（第1次）、社畑遺跡
平成元	8	17	中段遺跡、野首遺跡（第1次）
2	4	11	幅上遺跡
3	6	20	横割遺跡
4	7	12	大井久保遺跡、ほんのう遺跡
5	7	9	カウカ平A遺跡
6	6	10	大沢遺跡、城之古遺跡（第2次）
7	8	7	上梨子A遺跡、戸屋遺跡
8	12	9	野首遺跡（第3次）、島A遺跡
9	10	2	春山遺跡、寿久保遺跡、原田B遺跡 つつじ原C遺跡
10	3	10	谷地A遺跡、中新田B遺跡
合計	119	162	報告書（概報含む）刊行済み遺跡：11

表6 調査件数の推移
(太字は報告書刊行済みの遺跡)

館跡などが候補としてあげられた。

これらのうち馬場上遺跡の整理作業がある程度進んでいたため、平成10年度は馬場上遺跡の土器の実測、遺構図面の整理などを行うことになった。また、馬場上遺跡とはほぼ同時代の柳木田遺跡（古墳～中世）、河原田遺跡（平安～中世）、社畑遺跡（平安～中世）の土器の実測も合わせて行った。実測は、坏、蓋、碗、鉢などの小型の復元個体から始め、破片および墨書土器についても行われた。

来年度は、引き続き実測作業を行い、その後は拓本・トレースを経て、版下原稿の作成と本文執筆をすすめたい。
(阿部恭平)

3. 『笹山遺跡発掘調査報告書』刊行事業

既に文化財課年報2で作業経過が報告されているが、平成10年9月刊行をめざして、平成9年4月より作成作業を進めてきた笹山遺跡発掘調査報告書が9月28日に納品され、当初の目標が無事に達成された。また、今年度に入って急遽刊行が決まった上製本版（箱入り）も、10月8日に納品されている。題字の揮毫は、いち早く本遺跡出土の火焰型土器に注目された梅原猛氏（国際日本文化研究センター顧問）をお願いした。

最終的な報告書（並製本）の体裁・印刷部数などは、以下のとおりである。

名称：十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

『笹山遺跡発掘調査報告書』

体裁：A4判、横書・一段組

頁数：総頁数 412頁

本文 117頁 観察表 40頁

図面図版 133頁 写真図版 122頁

紙質：表紙 215kgレザック

本文・観察表 70kg書籍用紙

図面図版 90kg上質紙

写真図版 90kgアート紙

印刷部数：並製本 700部 上製本 500部

また、広く一般の研究者も報告書を活用できるように、十日町市博物館友の会から資金的協力を得て、さらに1,000部（並製本・有料頒布）の増し刷りがなされた。

最後になったが、報告書の刊行にあたりご指導とご協力をいただいた多くの皆様に、心より厚くお礼申し上げます。
(菅沼 亘)

4. 普及事業の概要

移動展

当間高原リゾート遺跡展（写真10・11）

日時 平成10年11月1日(月)

午前9時30分～午後3時30分

場所 水沢地区公民館

参加者 約120人

内容 十日町市の南部水沢地区の珠川原に当間高原リゾートがオープンして今年で2年が経過した。

市教育委員会では平成3～9年にかけて7遺跡（椿池・大井久保・珠川A・珠川B・ぼんのう・ぼんのう南・なんぜん萱場遺跡）の発掘調査を実施し、縄文時代の狩り場跡や集落跡、大型貯蔵穴、石棒などの祭祀用具などの様々な発見ができ、十日町市の歴史を紐解く上で貴重な成果を上げることができた。

今回は、一部ではあるが発掘調査が終了し、今までに整理された王冠型土器や火焰型土器などの土器類や石皿、石棒、打製石斧、磨製石斧などの石製品、耳飾りや土偶などの土製品、作業時に撮影した写真などを中心に各遺跡ごとにまとめ来館者に公開した。

なお、珠川原の工事前後の航空写真は、当間高原リゾート(株)よりご協力いただいた。

博物館速報コーナー

中条の遺跡（写真12）

平成10年9月15日～平成10年12月26日

内容 中条地区の県営ほ場整備事業に伴い平成8～9年にかけて発掘調査をした島A遺跡（中条峠）と原田B遺跡（中条上原）の出土遺物と市内塚田地内出土銭（池田義雄氏所蔵）を展示。

原田B遺跡のフラスコ状土坑から出土したクリの炭化物や土器片、磨製石斧、打製石斧、石錘などの石器類と塚田地内から一括出土していた開元通宝をはじめとする34種類の古銭を公開した。

下条の遺跡（写真13）

平成11年1月7日～平成11年3月31日（予定）

内容 下条地区の県営ほ場整備事業に伴い平成8～9年にかけて発掘調査をした野首遺跡（下条上新田）・寿久保遺跡（下条貝ノ川）出土遺物を展示。

下条地内を流れる飛渡川と貝ノ川の信濃川との接点に広がる、当市最大規模の縄文集落跡より出土した豊富な土器群と土偶などの土製品、耳飾りや翡翠製の玉などの装身具、石鏃や石錘などの狩猟・漁労用具などを中心に公開した。（太田喜重）



写真10 遺跡速報展



写真12 中条の遺跡コーナー



写真11 遺跡速報展 風景



写真13 下条の遺跡コーナー

5. 資料紹介

大井久保遺跡出土の粘土塊

菅 沼 亘

はじめに

ここで紹介する粘土塊については、すでに『十日町市史』資料編2・考古（十日町市1996）の「大井久保遺跡」の中で触れられている。しかし、そこでは市史という性格上、簡単な記述にとどまったため、今回、実測図を掲載して詳細な記載を行い、改めて資料紹介する。

遺跡の位置と調査の概要

大井久保遺跡は、信濃川右岸の河岸段丘（城山Ⅰ面）上に位置する（第1図）。遺跡は、中魚沼郡中里村との境界にある通称珠川台地の緩斜面上に立地し、標高は385～390mである。

1992年（平成4）にリゾート開発事業に伴い、市教育委員会によって約2,000m²の範囲が調査されている。遺構には、竪穴住居跡5棟、土坑10基（内4基は袋状土坑）などが検出されている。遺物は、中期前葉～中葉の土器、土製耳飾、土偶、三角形土偶、石器などが出土している。土器は、中葉のものが主体を占め、火焰型・王冠型土器などが数個体復元されている。

出土状況と肉眼による観察

粘土塊は、第3号竪穴住居跡の南西コーナーにある柱穴底面付近より出土している（写真14）。第3号住居跡は、長軸5.5m、短軸4.3mの不整楕円形を呈し、中央に炉（焼土）をもつ。柱穴の平面形は、円形で、径40cm、深さ30cmを測る。

粘土塊（第2図・写真15）は、片手にのるほどの大きさで、長さ（高）10.69cm、幅13.67cm、厚さ9.26cm、重量は1232.86gである。出土直後は、風化による剥落や後世の欠損もなく、完形品であった。現在の色調は、にぶい黄橙色（新版標準土色帖1997年版：10YR・7/3）である。出土直後は全体的にもう少し赤味がかり、表面に水分を帯びていた。

表面は、大小様々な凹凸に覆われ、とくにA・C・E面には洞窟状の深い凹部が多く見られる。紐で巻かれた跡や編布・木の葉などで包まれた跡、火熱を受けた痕跡は観察されない。また、A面の上部中央に一部を重複する二つの指の跡がある（第2図▼印）。ともに親指によるものと推定される。ほかに明確な指の跡は認められない。

実体顕微鏡による観察

中村由克氏（野尻湖ナウマンゾウ博物館）に粘土の分析をお願いした。風化で剥落した部分（1.93g）をサンプルにして、粘土に含まれている砂粒を構成する鉱物・岩石の鑑定をしていただいた。以下にその鑑定結果をまとめる。

①有色鉱物は、シソ輝石、角閃石が多く、普通輝石、磁鉄鉱などの鉄鉱物も含まれる。無色鉱物は、石英、斜長石が多く、パブルウォール型の火山ガラスも少量含まれる。

②岩片は、白色、赤色、赤褐色などのものがあり、褐色の微細粒子が多く含まれる。鉱物・岩片とも割れたり、丸みを帯びており、岩片の微細粒子（細砂）が約1/2程度含まれる。

③粘土は、水成ローム層の火山灰質シルト層（後期更新世？）のものであり、水成堆積物（段丘礫層上の水成層など）から比較的容易に採集できる。

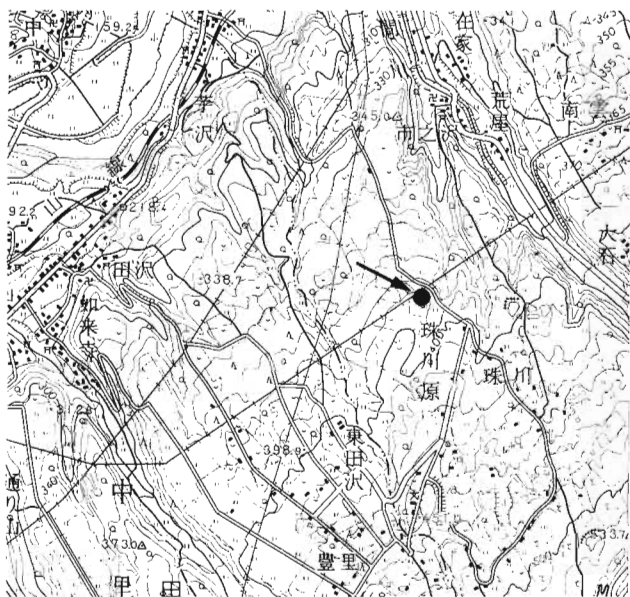
まとめ

土器の粘土（素地土）の製作工程には、「粘土採集→乾燥粉碎（風化）→混合→練り→ねかせ」の段階があるといわれている（新井1973）。本遺跡例は、その出土状況から「ねかせ」段階にあったと推定される。この「ねかせ」作業については、粘土の粘着性と可塑性を強化するためのもので、粘土は適度な湿り気があり、低温な穴などにおかれるとされている（新井前掲）。また、実体顕微鏡による分析結果から判断すると、粘土は遺跡付近の沢で採集されたと推定できる。

県内での類例をみると、新発田市村尻遺跡・小千谷市城之腰遺跡で「ねかせ」状態の焼粘土塊が出土している（田中1991）。本遺跡例は、火熱を受けておらず、柱穴より出土しておりまれな例である。しかし、その柱穴が廃絶された住居のものなのか、居住期間中に粘土の保管用に掘られた穴なのかなど、その性格の検討については今後の課題としたい。

参考文献

- 新井司郎 1973 『縄文土器の技術』中央公論美術出版
田中耕作 1991 「村尻遺跡出土の「ねかせ」状態の焼粘土塊について」『北越考古学』第4号



第1図 遺跡の位置 (1 : 50,000)

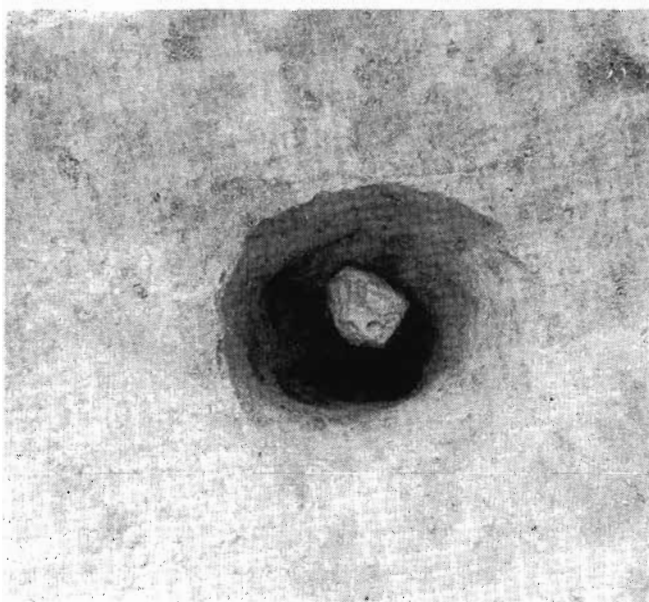
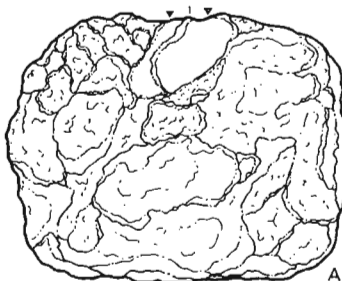
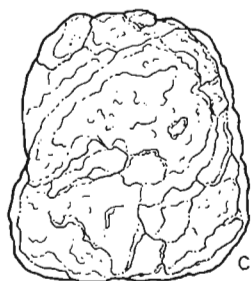


写真14 粘土塊の出土状況 (東より)

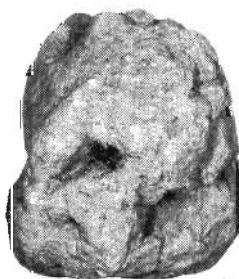


0 1 : 3 10cm

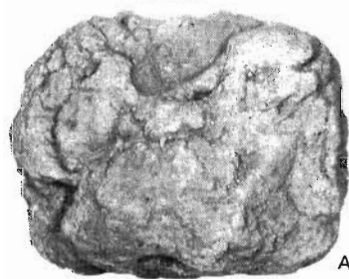
第2図 粘土塊の実測図



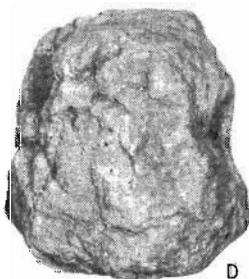
E



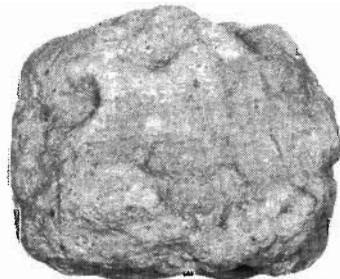
C



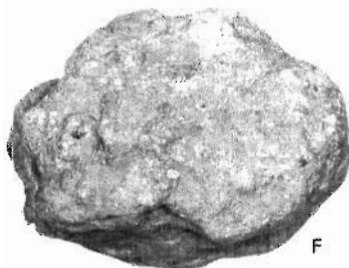
A



D



B



F

写真15 粘土塊の展開写真 (1 : 3)

指定文化財一覧

平成11年3月31日現在

区分	番号	種 別	名 称	員 数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
国	1	考古資料	笹山遺跡出土品一括	928点	平成 4. 6. 22	西本町 1	十日町市 (博物館)	縄文時代
〃	2	有形民俗	越後縮の紡織用具及び関連資料	2098点	昭和61. 3. 31	〃	〃	江戸～明治時代
〃	3	〃	十日町の積雪期用具	3868点	平成 3. 4. 19	〃	〃	江戸～昭和30年代
県	4	建造物	神宮寺観音堂・山門	2 棟	平成 3. 3. 29	四日町	神宮寺	江戸期
〃	5	絵 画	山水図鉏雲泉筆六曲屏	1 双	昭和29. 2. 10	山本	関口芳央	江戸時代末期
〃	6	彫 刻	木造十一面千手観音立像	1 軀	昭和46. 4. 13	四日町	神宮寺	平安時代後期
〃	7	〃	木造四天王立像 (伝広目天・伝毘沙門天)	2 軀	昭和49. 3. 30	〃	〃	平安時代末期
〃	8	有形民俗	越後縮幡	74旗	昭和49. 3. 30 追加50. 3. 29	吉田山谷 ほか	吉田社ほか6社 (博物館)	江戸～明治時代
〃	9	史 跡	大井田城跡		昭和53. 3. 31	中条	十日町市	南北朝期
〃	10	天然記念物	小貫諏訪社の大スギ	1 本	昭和53. 3. 31	小貫	諏訪神社	幹囲 8.33m
市	11	建造物	智泉寺山門	1 棟	平成 6. 3. 23	昭和町 3	智泉寺	江戸時代中期
〃	12	〃	観泉院山門	1 棟	平成 7. 3. 24	土市	観泉院	〃
〃	13	絵 画	一遍上人絵詞伝	8 巻	昭和54. 9. 12	川原町	小林賢有	〃
〃	14	彫 刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	平成 8. 3. 21	川原町	来迎寺	鎌倉時代後期
〃	15	工 芸	越後縮裂見本帳	2 冊	昭和47. 11. 28	本町 3	蕪木孫右	江戸期
〃	16	〃	十日町市織物歴代標本帳	47冊	昭和62. 2. 23 追加 1. 2. 16	西寺町	十日町織物工業協同組合 (博物館)	明治25年～昭和13年 明治42年～昭和 8年
〃	17	〃	縮問屋加賀屋の御用箱及び関連資料	110点	平成 2. 6. 8	西本町 1	蕪木元昭 (博物館)	江戸時代後期
〃	18	有形民俗	越後アンギン及び関係資料	一括	平成11. 3. 16	〃	十日町市 (博物館)	江戸～明治時代
〃	19	考古資料	馬場上遺跡出土品	一括	平成 2. 2. 22	〃	〃	古墳時代中期～平安時代
〃	20	考古資料	笹山遺跡出土品 (国指定分を除く)	一括	平成 2. 2. 22	〃	〃	縄文時代、中世
〃	21	考古資料	伊達八幡館跡出土品	一括	平成11. 3. 16	〃	〃	中世
〃	22	歴 史	旗指物	1 旗	昭和55. 4. 11	六箇山谷	富井清孝	江戸時代初期
〃	23	無形民俗	赤倉神楽		昭和51. 11. 8	赤倉	赤倉神楽保存会	
〃	24	〃	大の坂		昭和59. 1. 26	中条旭町	中条大の坂保存会	
〃	25	〃	新保広大寺節		昭和59. 1. 26	下条本町	新保広大寺節保存会	
〃	26	〃	新水のドウラクジン (道楽神) と ハネツケエーシ (羽根返し)		平成 7. 3. 24	新水	新水地区	
〃	27	工芸技術	越後アンギン製作技術		平成11. 3. 16	西本町 1	越後アンギン伝承会	
〃	28	史 跡	四日町神宮寺境内地及び山林		昭和47. 11. 28 追加49. 6. 11	四日町	竹内道雄	江戸期
〃	29	〃	大黒沢正平在銘梵字碑	1 基	昭和51. 1. 10	大黒沢	村山キノエ	南北朝期
〃	30	〃	鉢の石仏		昭和53. 1. 28	鉢	鉢石仏保存会	江戸期民間信仰跡
〃	31	〃	笹山遺跡		平成 4. 12. 3	中条上町	岩田栄十郎ほか	縄文時代、中世
〃	32	〃	羽川 (秋葉山) 城跡		平成10. 3. 25	六箇麻畑	麻畑・羽川城跡保存会	戦国期
〃	33	名 勝	積翠荘		昭和55. 4. 11	吉田山谷	酒井うめ子	江戸期
〃	34	天然記念物	姿箭放神社大ケヤキ	1 本	昭和63. 7. 20	姿	箭放神社	樹齢約550年、幹囲5.14m
〃	35	〃	高麗神社社叢		平成 1. 10. 3	背戸	高麗神社	
〃	36	〃	安養寺松尾神社の大スギ	1 本	平成 4. 3. 21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年、幹囲7 m
〃	37	〃	安養寺円通庵の三本スギ	3 本	平成 4. 3. 21	〃	〃	樹齢約500年
〃	38	〃	枯木又龍王池とカスミザクラ及び 三本スギ	1ヶ所、 1本、3本	平成 6. 3. 23	枯木又	枯木又地区	
〃	39	〃	入山のカスミザクラ	1 本	平成 9. 3. 24	入山	山本丑松	



十日町市教育委員会 文化財課年報 3

発行日／平成11年(1999) 3月31日

編集／十日町市教育委員会(文化財課)
発行／十日町市博物館友の会

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1丁目
十日町市博物館内
十日町市教育委員会文化財課
TEL (0257) 57-5531
FAX (0257) 57-6998

印刷／(有)田口印刷所